

○田村副議長 次に、塚田議員。

〔塚田議員質問席へ〕

○塚田議員 皆さん、こんにちは。本日アンカーを務めます、市民の声なしで米子の未来、発展なし、会派蒼生会、仏の塚田、塚田佳充でございます。アンカーについて何かエピソードを話したほうがいいかなと、ちょっとこういうところで思いまして、今では想像できないかもしれませんが、足が意外と速くて、リレーのアンカーをよくやりました。ちなみに速いかどうかは分かりませんが、高校時代、50メートル6秒4、野球部の中では3番目で、短ければ短くなるほど速くて、墨間では2番目でした。そんなことはさせておき、最後までお付き合いください。

今定例会におきまして、大要2点質問してまいります。市長並びに当局の皆様には前向きかつ建設的な答弁をよろしくお願いいたします。

大要1点目、全国大会に出場する選手支援についてです。

今まさに本市出身の選手が様々なスポーツの中で世界の舞台で輝いている時代となってまいりました。そういう選手を見ますと、我々も誇りに思えますし、米子市を挙げて応援せんといかんと強く思ってしまいます。世界の舞台で戦っている方々は、やはり小学校の頃から中国大会、または全国大会に県代表で出場しています。私はなかなか出場することができない大きな大会、中国大会、全国大会に県代表で出る選手や団体に手厚く支援してもいいのではないかと思います、今回の質問をいたします。

保護者の方や団体の指導者の方々から伺いました。こうおっしゃっておられました。全国大会に出場する際、激励金を支給して

いただきました。こちらから言うのもおこがましいと思いますが、近年の物価高騰で交通費や宿泊費、食費などの経費がかさんでとても苦しいですという切実な思いを話してくださいました。

そこでお聞きします。小学生が全国大会に出場する際、支援について、近隣市町村の取組を伺いたいと思います。

○田村副議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 小学生が全国大会に出場される際の近隣市の支援状況につきましては、県内3市、あと松江市、出雲市におきまして、それぞれ支援内容は異なりますが、各市とも激励金や補助金として支援をしておられます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 支援を行っているのは存じております。

では、中学校の部活動の選手支援について、近隣市町村の取組を伺いたいと思います。

○田村副議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 中学生の部活動の選手支援につきまして近隣の5市の教育委員会に聞き取りましたところ、補助の対象となる大会や補助内容に差はございますものの、全ての市におきまして、中学生の部活動の大会の交通費や宿泊経費の補助を行ってる状況にございます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 小学校も中学校も支援はしているということで分かりましたが、もっと分かりやすく、数字は分かりませんか。言える範囲で構いませんので、先に小学校の数字を伺いたいと思います。

○田村副議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 承知してる範囲でございますが、鳥取市がお一人1万円、倉吉市が交通費と宿泊費の実費の2分の1、境港市が1チーム1万円、松江市がお一人5,000円、出雲市が交通費の2分の1と宿泊費の一部を基準としておられ、それぞれの市の支給要件によりまして、激励金、または補助金として支給をしておられます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。中学生の部活動の数字は分かりませんか。

○田村副議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 近隣市におけます補助金額についてでございますけれども、まず、中学校体育連盟主催の大会につきまして、鳥取市が交通費、宿泊費の2分の1、松江市は同じく交通費、宿泊費の3分の1を補助しております。次に、倉吉市につきましては、交通費、宿泊費の2分の1、もしくは大会開催地によって設定しております上限額のいずれかの低い額を補助しております。次に、出雲市につきましては、交通費は2分の1、宿泊費につきましては1泊3,000円から5,000円を補助していらっしゃいます。最後に、境港市につきましては、予算の範囲内ということで、交通費、宿泊費を補助してると伺ってるところでございます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 よく分かりました。やはり数字で聞いたほうが分かりやすいですね。近隣市は、小学生、中学生、担当部局が違ふの

で、手厚くやっている印象が持てました。

それでは、本市の小学生が全国大会に出場する際の支援について、本市の取組を伺いたいと思います。

○田村副議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 本市は、外郭団体である米子市スポーツ協会から、加盟しておられる団体に対しまして、全国大会に出場される市内の小学生を応援することを目的に激励金をお渡ししております。激励金の交付金額は、米子市スポーツ協会の交付規程によりまして、選手お一人当たり3,000円、1団体当たりの上限額としまして2万円と決められておられます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 分かりました。では、中学生の部活動の支援について、本市の取組を伺いたいと思います。

○田村副議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 本市の中学生の部活動の選手支援についてでございますけれども、本市におきましては、中学生の部活動として全国大会に出場されます場合、交通費や宿泊費の一部を助成してるところでございます。また、今年度から、学校の部活動だけではなく、鳥取県中学校体育連盟が大会参加を認めております地域クラブ活動として出場する場合につきましても同様の助成を行ってるところでございます。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 助成を行ってるのは分かりました。

でも、言える範囲でいいですので、中学校のほう、具体的な助成金額など分かりますか。

○田村副議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 そうしますと、本市の具体的な助成金額についてでございますけれども、まず、鳥取県、島根県で大会が開催される場合は、開催地の最寄り駅までの鉄道運賃の相当額を助成しておるところでございます。それから、鳥取県、島根県以外で大会がある場合につきましては、開催地の都道府県ごとに助成額を設定しておりまして、実際の金額といたしましては、大会出場に必要なと見込まれます交通費と宿泊費のおよそ８割程度を助成してるところでございます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 交通費と宿泊費の約８割助成、すごいですね。近隣市の中でも一番ではないでしょうか。素晴らしいと思います。スポーツ部、文化部問わず、このまま続けていただきたいと思います。

このような助成制度が小学生にもあれば保護者の方々は喜ぶと思いますが、小学生への支援拡充について伺いたいと思います。

○田村副議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 支援の拡充につきましては、激励金を交付していただいております米子市スポーツ協会と調整する必要があると考えております。そのため、米子市スポーツ協会や加盟しておられる各競技団体の皆様に御意見を伺いたいと考えてございます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 それでは、改革が求められる部活動の地域移行ですが、中学生の部活動支援拡充について伺いたいと思います。

○田村副議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 中学生の部活動の支援拡充についてでございますけれども、現在、部活動の地域展開を進めているところでございますけれども、部活動支援の対象となる大会や助成金額の拡充などの費用負担の在り方につきましては、部活動の地域展開を推進していく上での課題の一つでございますので、本市の実情に応じた、安定的、継続的な支援策の仕組みを引き続き考えてまいりたいと存じます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 皆さん、一つお気づきでしょうか。中学生の助成制度の答弁の中に、中学校体育連盟主催の大会についてと限定されておられました。俗に言う中体連主催です。今や中学校の部活動が地域移行を推進していて、中体連主催の試合に出られないクラブチームに所属している米子市在住の中学生は支援がないということになります。私はぜひここにスポットを当ててほしい。ぜひ公平な支援拡充の仕組みを検討していただきたいと強く要望いたします。

それから、小学生は、米子市スポーツ協会の交付規程に基づいているとのことでしたが、先ほど例に挙げました保護者の方や団体の指導者の方々からの声にもあったように、物価高騰の中、交通費や宿泊費、食費などが苦しいと話がありました。米子市スポーツ協会の交付規程を見直すときが来たのではないのでしょうか。

市長、すみません、聞き取りでは予定していませんでしたが、話せる範囲でいいですので、市長のお考えをお聞かせください。

○田村副議長 伊木市長。

○伊木市長 御質問、あくまで小学生のことでの御質問というふうに受け止めて答弁をさせていただきたいと思いますが、これ結構深い問題が、問題というか、考え方のことがあるのではないかなと思います。最初に、単純な話としては、先ほど来答弁させていただいておりますように、他市との比較によって、1人当たりがどうなのかということは検討する際に参考になるものはあるというふうに思っておりますが、一方で、小学生レベルにおいて、どれだけ全国大会が、必要性だとか、あるいは市として奨励すべきかとか、その辺りの議論というのはもっとそれぞれの競技団体でしっかりしてほしいなと思う部分はございます。といいますのは、日本のスポーツの中で、オリンピックでよく金メダルを取る代表的なスポーツは柔道なんです。柔道に関しては、小学校の全国大会やめたんですね。これはいわゆる勝利至上主義といいたいでしょうか、早い段階で選手を潰しちゃいけないと。やっぱり伸びていくのはある程度体が大きくなってから、大人になってからというところ、そこで一番頂点をつくろうということで、小学生の間はあくまで基礎を学んで、そしてスポーツの楽しさを体で覚えてもらう段階ということで、全国大会を廃止されたという経緯を伺ったことがあります。これは非常にすばらしい見識だなと、さすが世界で金メダルを連発する、連続で取得するような競技だなというふうに思いました。

したがって、繰り返しになりますけども、他市との比較の中でどうするかということは今後も議論させていただきたいというふうに思う反面、小学生の段階に関しましては各競技団体でその指導というものをどのような観点で行うのか、これはそれぞれ

の団体でもやはり考えていただきたいなというところは、私からの要望として申し上げておきたいと、そのように思います。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 市長、ありがとうございます。聞き取りにない部分で答えてくださいます、はい、了解しました。

それでは、次に、大要２点目、移りたいと思います。交通基盤の充実と人が集うまちづくりについてです。

伊木市政が掲げている歩いて楽しいまちづくりやバス事業が鍵となると思います。だんだんバス、どんぐりコロコロ、実証実験中のよねぎーバスなど、少しずつかもしれませんが、充実してまいりました。料金も破格値で１５０円、私は２００円ぐらいにしてもいいような気がしますけど、物価高騰ですし、検討してもいいかなと思いますが、それはまたの機会にしまして、本市にとって重要な施策に欠かせないバス事業の現状、コミュニティバスの現状について伺いたいと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 今運行しておりますコミュニティバスの現状について御答弁申し上げます。最初に、だんだんバスでございます。これは昨年度から歴史・まちなかコースの本格運行ですとか、またＩＣＯＣＡの導入、そのほか運賃無料ＤＡＹの実施をしております。順次利用促進を図っているところであります。結果といたしまして、今の利用者数の状況でございますが、コロナ禍の令和２年が底でございます、９万３,０００人台まで落ち込みました。現在、昨年度でございますが、１０万６,０００人台まで回復をしたところであります。また、せんだってでございます

けども、沿線の魅力あるスポットを紹介するためのウェブサイトも立ち上げたところでございます。

次に、どんぐりコロコロであります。利用者数につきましては、近年横ばい傾向を示してございます。今後でございますが、利便性向上に向けまして、より分かりやすいルートになりますよう路線の再編の検討を進めているところでございます。また、日曜日が運休日でございますけども、運休日を活用いたしまして、淀江の駅と周辺観光スポットを結ぶ周遊ルートの実証運行に向けまして、現在調整を行っているところであります。

そして、よねぎーバスでございますが、これは昨年度から実証運行を行ってございます。今後でございますが、10月に実証ルートを一部変更いたします。その後、7年中、今年度中に本格運行に移行したいと考えてございます。以上であります。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 3つのバスについて答弁いただきました。

その中で何点かお聞きしたいことがありましたので伺います。だんだんバスの運賃無料DAYの実施とありましたが、実施した目的と効果があったのか伺いたいと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 まず、運賃無料DAYの目的でございますが、これはバスを利用するきっかけづくり、そしてバス利用の習慣化を目的といたしまして、これは昨年度から実施をしております。これまでの実績、成果でございますが、昨年度につきましては、大規模イベントにぶつける形で実施をいたしました。結果といたしまして、だんだんバスの実績では、通常の前年同月比で

110%から、月によっては350%程度と非常に多くの皆様方の御利用をいただいたところであります。これらにつきましては、よりその習慣化というものに焦点を当てる形で、6月から毎月第3日曜日に運行しております。その結果、だんだんバスにおきましては、6月以降の利用者数が前年同月比で増加をしてございます。利用促進に一定の効果を上げているものではないかと、このように考えてございます。以上であります。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 やはりバスを身近なものとして感じてもらい、利用者増加を目的としたということですね。その効果が出るということで、とてもいい事業だと思います。

では、今後も運賃無料DAYは継続して行うのか伺いたいと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 まず、今年度につきましては残りまだ半年ございますので、さらなる周知に努めまして、利用促進を図ってまいります。その上で、その事業効果もよく見極めてまいりたいと考えております。

御質問の運賃無料DAYの継続に関しましては、今の事業効果の見極めと併せまして、今後でございますが、路線バスのＩＣＯＣＡの端末が導入される予定となっております。来年度以降のそういった環境の変化なども踏まえまして、総合的に検討してまいりたいと考えてございます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 取りあえず今年度の実験で検証して、今後検討する

ということですね。

ではもう一つ、だんだんバス沿線の魅力あるスポットを紹介するウェブサイトを立ち上げたとのことですが、詳細を伺いたいと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 このウェブサイトでございますが、これは昨年度のお認めいただきました予算を活用いたしまして、だんだんバスの利用促進、そして沿線エリアでのにぎわいの創出ですとか、あるいは消費拡大をつなげていくこと、これを目的に今年の7月の25日に立ち上げを行いました。サイトの中ではだんだんバスの紹介ですとか、路線図、時刻表はもちろんでございますが、一番の目的はバス沿線の観光スポットですとか、あるいは魅力ある店舗の情報などを掲載しているところであります。今後でございますが、今10か所のスポットの御紹介をしておりますが、これを30か所まで増やす形で、今年度中にですね、内容の充実も図りながら利用促進、またまちの魅力発信にもつなげてまいりたいと考えてございます。以上であります。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 まちの魅力発信になっているというのはとてもよいことだと思います。だんだんバスだけではなく、どんぐりコロコロやよねぎーバスにもあってもいいと思います。意外と地元の人知らないことばかりなので、地域を知る、まちを知るいい機会となるのではないのでしょうか。よねぎーバスは特に範囲が広域なので、弓浜地区を知るにはいい機会だと思います。

それから、どんぐりコロコロバスは運休を利用して、淀江駅と

周辺観光スポットを結ぶ周遊ルートの実証運行案、これはとても面白いと思います。報告ができるようになるまで楽しみに待っていますので、よろしくお願いいたします。

よねぎーバスですが、令和7年度中に本格運行に移行することですが、詳細について伺いたいと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 今鋭意準備を進めてございます。これまで様々なアンケートですとか、利用者の皆様の聞き取りを行ってまいりました。主な意見、御要望が3点ありまして、今片回りでございますが、両回りでの運行にしてほしいということが1つあります。またルートにつきましてもよりきめ細やかなルート設定にしていだきたいという御要望がございます。また、3点目といたしまして、車両についてできるだけ大きな車両、今はジャンボタクシーでございますが、もうちょっと大きなバスがいいと。あとは低床のバスがいいと。こういった御要望を主にいただいてございまして、いずれも対応する形で年度内には本格運行に移行したいというふうに考えてございます。

また、今申し上げました車両につきましては、本格運行時、小型ノンステップバスのショートボディーでございます。これはだんだんバスと同じ日野ポンチョでございますが、これを2台購入するように今準備を進めているところであります。以上であります。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 いいですね。私が3月の一般質問で提案したポンチョなんですね。名前がいいですね、ポンチョ。言いたくなりま

すよね、ゆるキャラみたいで。いっそのこと日野自動車さんをお願いしてポンチョを使わせてもらい、よねぎーバスをよねぎーポンチョにしたら子ども受けもしそうですけど、コミュニティバスの現状は分かりました。

コミュニティバス以外で気になったのがよなごバルです。本年 8 月に米子商工会議所が主催したよなごバルについて概要を伺いたいと思います。

○田村副議長 若林経済部長。

○若林経済部長 よなごバルは米子商工会議所が主催している夜の飲み歩き、食べ歩きイベントで、令和 4 年から毎年開催されておりまして、地元の飲食店を広く知っていただくとともに地域の消費を促進することを目的として実施されております。今年のよなごバルは 8 月に開催されまして、これまでの角盤町・朝日町エリアや米子駅周辺に加えまして、新たに皆生温泉エリアも対象に加わったところでございます。開催期間はエリアごとに分かれておりまして、皆生温泉エリアは 8 月 2 日から 8 日まで、米子駅周辺エリアは 18 日から 24 日まで、そして角盤町・朝日町エリアは 25 日から 30 日まで開催されたところでございます。参加者は、各店舗が独自で用意されたお得なバルメニューを楽しみながら複数の店舗を巡っておられ、地域内の回遊性の向上や飲食店の新たな顧客の獲得につながっているものと認識しております。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 すみません、私、知らなくて、令和 4 年度から毎年開催されていたんですね。今年初めて知りました。

周知はどのように行われていたのか伺いたいと思います。

○田村副議長 若林経済部長。

○若林経済部長 よなごバルの周知については、米子商工会議所によりますと、公式のホームページやSNS、新聞、テレビコマーシャルのほか、市内のデジタルサイネージの活用、さらには商工会議所職員による街頭でチラシ配布など、精力的にPR活動に取り組まれたと伺っております。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 結構PRしてますね。

商工会議所が主催ですが、本市としては何か支援を行ったのか伺いたいと思います。

○田村副議長 若林経済部長。

○若林経済部長 市としての支援でございますが、名義後援のほか、市のホームページやSNSによる情報発信、市役所本庁舎でのチラシの配架、イベント開催応援補助金の交付などを通じて支援を行ったところでございます。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 市も後方支援をしっかりとやってますね。今年まで知らなかったのが恥ずかしく思えてきました。

よなごバルのチラシの裏には路線バスの割引券がついていましたが、実際路線バスの割引券の利用数とよなごバルの参加数、分かれば伺いたいと思います。

○田村副議長 若林経済部長。

○若林経済部長 まず、路線バスの割引券の利用者数ですが、これについては延べ39人の利用があったと伺っております。また、同時に行われましたスタンプラリーにおいて、参加店舗を3店舗

回ごとに1回抽せんができるという仕組みになっております。その抽せん回数が700回を超える実績だったと伺っておりまして、多くの方が参加されたと認識しております。なお、抽せんについては、インターネットの設定とかによって抽せんができなかった方もおられますので、700以上、実は来ておられるという認識でございます。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 3店舗回ごとに1回抽せん。その抽せん回数が700回を超える、700回以上ということですね。もしかしたら800回、900回あったかもしれません。単純計算しても2,100人以上が参加したことになりますね。あとは、例えば3店舗行かず、2店舗だったり、1店舗だった方も合わせれば3,000人とかになるかもしれませんし、期間としては8月丸々ではなく、8月2日から8日は皆生温泉エリア、8月18日から24日は米子駅エリア、8月25日から30日は朝日町・角盤町エリア、計20日間での結果、人がそれだけ動いてるっていうことになります。民間がマイクロバスを出して回っていました。ですが、私はそこはやはり本市が夜の街の活性化と一緒に目指して、夜間専用のバスを出すのも後方支援の一つではないでしょうか、今後検討してみてください。

今後の実証実験についてです。次の質問に移ります。今、弓ヶ浜でよねぎーバスの実証実験が行われていて、今年度中に本格運行に移行すると答弁をいただきました。新たに箕蚊屋地区においてコミュニティバスの実証運行が開始されるところですが、これ以外に今後の取組について考えてることはないか伺いたいと思い

ます。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 今後の新たな実証についてでございますが、せんだって所管委員会でも御報告を申し上げましたが、先進的自動運転バスの導入に向けまして、国交省の補助事業でございます自動運転社会実装推進事業に申請を行っておりました。6月の24日、重点支援事業として採択を受けたところであります。

そこで、現在、12月からの実証運行開始に向け準備を進めてございます。今年度につきましては、米子駅、そして鳥取大学医学部附属病院を結ぶ区間でレベル2運行を行う予定としております。来年度からは、完全自動運転となりますレベル4への移行を目指しているところであります。以上でございます。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 自動運転バス、一番の目的は運転手の人手不足解消に向けての事業ですね。いろんな障害があるかもしれませんが、レベル4本格運行実現に向けて推奨していきたいと思います。

今後、自動運転をどのように拡充していくのか伺いたいと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 今後の展開でございますが、本市といたしましては、先進的自動運転バスのレベル4、この面的広がりのある実用化を目指しているところであります。そのためにもまずは今年度から実証事業を段階的に進めてまいりたいと考えております。その後、実証事業の結果を踏まえながら、まずは町なかや郊外のコミュニティバス、そしてその後、路線バスのうち比較的

乗車密度が高い路線への段階的な展開を目指しているところであり
ます。以上でございます。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 町なかや郊外のコミュニティバス、さらには、路線
バスのうち乗車密度が高い路線への段階的な展開を目指している
のはすごくいいと思います。

それにプラスしての提案ですが、よなごバルのような米子のま
ちを巡回する米子駅から朝日町・角盤町間や皆生温泉から朝日
町・角盤町経由、米子駅間など、今年度の実証運行を始める自動
運転で活用を検討してみてはどうかと思いますが、見解を伺いた
いと思います。

○田村副議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 まず、今年度につきましては、先ほど御
答弁申し上げましたとおり、米子駅と鳥取大学医学部附属病院間
で行ってまいります。ただ、来年度以降はこの実証区間の拡大と
いうのを考えているところであります。その際、御指摘の区間、
2区間ございましたが、その中でも特に米子駅から角盤町・公会
堂エリアの区間につきましては、私どもが早期実用化を目指して
おりますだんだんバスのコースとも重なるエリアでもございます
ので、拡大対象区間として検討はしてみたいというふうに考えて
ございます。以上です。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 ぜひお願いいたします。結局のところ、市民に見える
中でのハード面、ソフト面の支援もありがたいですが、よなごバ
ルの目的でもありますように、お客様をいかにして呼び込むか、

これに尽きると思います。皆生温泉旅館なども物価高騰の中で、人件費に頭を抱えてるとお聞きするところもあります。全てではありませんが、夜の食事は米子駅前や朝日町、角盤町に出られてもらって、朝食付きの温泉旅館でもありだと思います。利便性が向上すれば、自然と利用者は増え、まちが活気づく、そういうまちにしていきたいではありませんか。

最後に、市長、歩いて楽しいまちづくり、新商都米子のまちづくり 2025 に取り組まれる中、自動運転の拡充について、市長の見解を伺いたいと思います。

○田村副議長 伊木市長。

○伊木市長 この地域の公共交通を充実させようということで路線を少しでも便利に充実させようというふうに思ったときに、予算の問題というのは当然あるわけですが、仮にそうした予算面で工面ができたとしても、実は今、運転手さんが不足している、人手不足という問題が、むしろそちらのほうが大きな問題となっております。したがって、自動運転バスの導入につきましては、バス事業者の運転手不足に係る状況改善ですとか、あるいは、自動運転が安定すればですけれども、交通事故の減少などにもつなげることができますし、さらには公共交通をめぐる環境改善にも大きく寄与するものと考えてございます。

そこで、このたび本市におきまして国の重点支援を受けまして、先進的自動運転バス、レベル4の実用化に挑戦することにしたということでございます。この挑戦が成功いたしますと、将来にわたって市民の皆様に対して移動手段をしっかりと守っていくことが可能となりますし、またこれは全国各地で横展開も視野に入れ

た実証実験でございますので、それぞれの地域における人手不足、運転手不足という課題にもしっかりと対応できるものと考えてございます。一連の実証実験で把握しました課題を一つ一つ丁寧に解決をしながら、公共交通を生かした住んで楽しいまちづくり、そして歩いて楽しいまちづくりの実現に向けまして着実に歩みを進めてまいりたいと考えております。

○田村副議長 塚田議員。

○塚田議員 ありがとうございます。同じ考えだと再認識いたしました。一緒にいいまちにしていきましょう。

大分早いですが、これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○田村副議長 以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りいたします。本日はこれをもって散会し、明 10 日午前 10 時から会議を開きたいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田村副議長 御異議なしと認め、そのように決定いたします。

本日はこれをもって散会いたします。

午後 4 時 13 分 散会